



Letter for Members

日本補綴歯科学会 Japan Prosthodontic Society
 ほとつ <http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/>

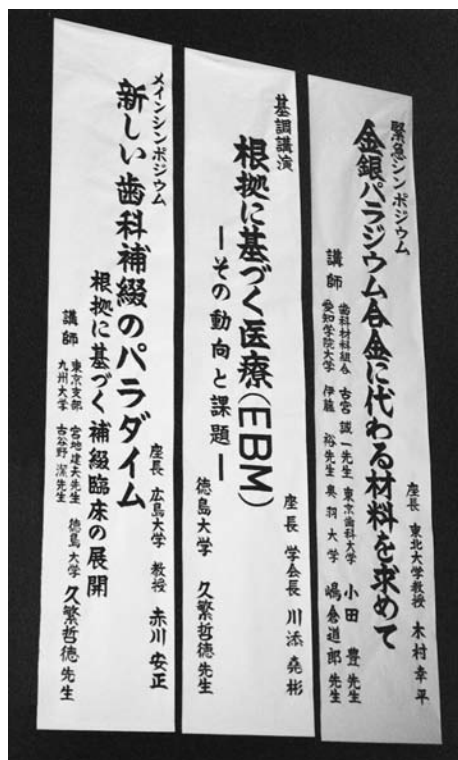
発行人 川添堯彬 編集 広報委員会
 事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (財)口腔保健協会
 TEL 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

平成 14 年 2 月 10 日発行

コンテンツ

第 106 回学術大会 大韓補綴学会から 多数の参加を得て開催される	1	第 107 回学術大会案内	6
副会長挨拶	2	第 108 回学術大会案内 (予報)	7
本学会と KAP との懇談会開催される	2,3	今後の学術大会	7
学術大会新企画について	3	支部学術大会のお知らせ	7,8
課題口演優秀賞受賞演題紹介	3	関連学会案内	8
役員変更のお知らせ	3	関連国際学会案内	8,9
準会員の開設	3,4	関連学会報告	9,10
投稿にかかわる会則の変更	4	関連国際学会報告	10,11
歯科補綴学教育基準 2001 改訂案決まる	4	海外研究機関の紹介	11
「中堅優秀論文賞」, 「特定推進研究優秀 論文賞」の新設	4,5	新規認定研修機関 (乙) の紹介	12
第 2 回国際フォーラム開催される	5	新指導医・認定医紹介	12
プログラム委員会からのお願い	6	新入会会員紹介	12
三学会合同会議開催	6	広報委員会からのお願い	12
		ニュース	4,5,6,7

第 106 回学術大会 大韓補綴学会から多数の参加を得て開催される



新執行部として企画から立ち上げた初めての大会である第 106 回学術大会が平成 13 年 10 月 26 日(金), 27 日(土), 28 日(日)に盛岡市市民文化ホール・マリオスにおいて石橋寛二教授 (岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座) を大会長として開催され, 全国から約 1,500 名の参加がありました。今回の学術大会では, メインテーマを「新しい歯科補綴のパラダイム—エビデンスとアセスメントの確立へ向けて—」として, EBM テーマに沿った基調講演, シンポジウム, 研修会が展開されました。また, 重点目標の一つである特定推進研究テーマが「課題口演」として採用され, 加えて学術情報のグローバル化の具体策としての「国際セッション」が設けられ, 大韓歯科補綴学会 (KAP) から 31 名の参加と 10 題の研究発表がありました。また, 臨床家の発表の場である「臨床口演」も実施されました。

今回のニュースレターでは, 川和忠治副会長のご挨拶に続き, 第 106 回学術大会・臨時総会議決事項について主にご報告いたします。

副会長挨拶



副会長 川和 忠治

川添堯彬会長が「プロソ2001計画」を掲げてスタートし、10カ月あまりが過ぎようとしています。この大切な時期に副会長の重責を任されることになりました。本学会の発展に微力ながらお役に立てればと思っております。

さて、現会長が21世紀においても学会として存続、発展していくための一つとして「国外との関係、すなわちグローバル社会における本学会の立場」を自覚し、その変化に機敏に対応する必要があるという考えの基に、その重点目標のなかに「グローバル社会に対応した本学会情報の発信、学術情報の英語化・英文化」を挙げています。このことを具現化する一手段として「英文誌」を早急に発行すべき「英文誌発行準備委員会」を新たに発足させ、その責任者として私が指名され準備を進めて参りました。盛岡での第106回日本補綴歯科学会学術大会の折りに開催されました理事会、評議員会、臨時総会で英文誌発刊の具体的事項について皆様方からご承認を頂くことができました。補綴誌第45巻第6号に投稿規定、原稿締め切り日等を掲載していますのでふるってご投稿をお願いいたします。

話は変わりますが、わが国において疾病構造の変化、高齢化に伴って、従来の治療を中心とした疾病対策だけではなく、生活習慣病の発病を予防する「一次予防」を重視した健康対策が必要となってくると考えられます。このような考え方を背景に厚生省より平成12年3月に「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」が発表されました。その中で「歯の喪失を減らす」ことが取り上げられております。このことは裏を返せば日本国民の中には歯を喪失している人、またその予備軍が数多くいることとなります。第106回学術大会の「メインシンポジウム」において、この内容に関連した講演が行われ、時を得たテーマであったと思います。

最後になりますが、本学会と会員の皆様方のますますの発展をお祈り申し上げます。

本学会とKAPとの懇談会開催される

今回、大韓民国の主要6大学から大韓歯科補綴学会(Korean Academy of Prosthodontics, KAP)の会長、副会長、理事、教授を含めメンバー31名が学会に参加されました。大韓民国には、現在約2万人の歯科医師がいますが、KAPは5千人の会員を有する大韓民国最大の学会です。春と秋の2回学術大会を開催しており、春は臨床を主に、秋は研究発表を主に行っています。また、年6回学術雑誌を発行し、そのうち2号は英文誌です。

KAPからの参加者への歓迎の心表示ならびに本学会とKAPとの相互学術交流関係樹立話し合いの第一歩として、平成13年10月26日(金)にKAP役員との懇談会がきわめて友好的かつ親善的な雰囲気で開催されました。

古谷野 潔国際渉外委員長より開会のご挨拶があり、続いて石橋寛二大会長、川添堯彬会長から歓迎のご挨拶がありました。KAPからは会長のYang教授、次期会長のChoi教授よりご挨拶を頂き、田中久敏前会長による乾杯の後に、歓迎の宴に移りました。その後、両学会メンバーの自己紹介が行われました。

日本側からの出席者は以下の先生方です。

川添堯彬会長、石橋寛二大会長、田中久敏前会長、小林義典元会長、大山喬史副会長、川和忠治副会長、平井敏博庶務担当理事、赤川安正学術委員長、古谷野 潔国際渉外委員長、井上 宏用語検討委員長、伊藤 裕医療問題検討委員長、天野秀雄会則等検討委員長、山内六男広報委員長、田中昌博会長幹事、石島 勉庶務幹事、塩山 司実行委員長

KAPからの参加者は以下の先生方です。

Seoul University

Yang, Jae Ho 教授 (KAP 会長)

Lee, Jai Bong 教授 (KAP 総務理事)

Han, Jung Suk 教授 (KAP 国際理事)

Koak, Jai Young 教授

Kyunghee University

Choi, Boo Byung 教授 (KAP 元会長)

Choi, Dae Gyun 教授 (KAP 副会長、次期会長)

Lee, Sung Bok 教授 (KAP 理事)
Kwon, Kung Rock 教授
Yonsei University
Chung, Moon Kyu 教授 (KAP 副会長,
次々期会長)
Choi, Byeong Gap 教授
Pusan University
Jeon, Young Chan 教授
Chousun University
Chung, Chae Heon 教授
Kang, Dong Wan 教授 (KAP 理事)
Chung, Seung Mi 教授
Korea University
Shin, Sang Wan 教授

学術大会新企画について

今回の学術大会では、はじめて英語を用いての「国際セッション」が設けられ、5題の口頭発表と12題のポスター発表が行われました。韓国からはインプラントに関する話題を中心に計10題の発表がありました。初めての試みではありましたが活発な質疑もあり、本学会にとってもよい刺激になるばかりでなく、広く海外にもアピールする機会となるものと今後が期待されます。

また、臨床家の発表の場である「臨床口演」では8題の発表がありました。臨床経験の豊富な先生方からの発表も多く、一般会員にとって今後の臨床への刺激となったと思われます。口演の内容は術後の長期経過を紹介し、管理、メンテナンスの問題点等を紹介したもの、日常臨床を紹介し、その診断、治療方針の紹介をしたもの、種々のアイデアや材料を紹介したものなどでした。会場からは臨床現場での実践的な質問から、大学等へのデータの裏づけを要望する意見などが出され、大学と臨床家の距離が少し近づいた雰囲気が得られました。

課題口演優秀賞受賞演題紹介

第106回学術大会における課題口演は、インプラント、組織再生、金銀パラジウム合金代用合金、咀嚼・嚥下運動、審美補綴症例・材料、咬合

と全身の関連疫学、補綴治療の臨床疫学・テクノロジーアセスメントの8区分で過去最多の22題の発表がありました。そのため、今回は2会場に分けて行われました。

課題口演コンペティションにおいて、以下の先生方の演題が優秀賞を受賞されました。

1. 是竹克紀, 佐藤裕二, 中島 克, 赤川安正 (広島大学歯学部口腔機能修復学講座): 生体を反映したインプラント三次元有限要素モデルの開発—骨の物性の影響—
2. 園山 亘, 窪木拓男, 江口傑徳, 小森千尋, 藤沢拓生, 完山 学, 矢谷博文 (岡山大学大学院医歯学総合研究科顎口腔機能制御学分野): 修復象牙質形成促進時における結合組織成長因子の局在とその発現制御機構
3. 寺澤秀朗, 池田和博, 平井敏博, 牧浦哲司, 傳法佳恵, 永瀬佳孝, 姜 英男 (北海道医療大学歯学部歯科補綴学第1講座, 口腔生理学講座): 咬合支持の喪失がラット脳内のAch作動性ニューロンに及ぼす影響
4. 田地 豪, 吉田光由, 佐藤裕二, 赤川安正 (広島大学歯学部口腔機能修復学講座): 要介護高齢者の義歯治療への適応に関する縦断研究

役員変更のお知らせ

石上友彦先生 (元愛知学院大学歯学部, 現日本大学歯学部) の所属が東海支部から東京支部に変更になりました。また、佐藤 亨先生 (東京歯科大学) が東関東支部の評議員に、星合和基先生 (愛知学院大学歯学部) が東海支部の評議員になりました。

準会員の新設

本学会の会員としては、正会員、特別会員、名誉会員、法人会員の区分がありましたが、第106回学術大会時の臨時総会において「準会員」が認められました。

準会員の対象者は、医師、医療従事者、歯科技

工士，歯科衛生士，国内外在住外国人，学部学生・専門学校生などの方々です。入会金，年会費，学術大会参加費が半額となります。ただし，学生は入会金 1,500 円のみ納めれば準会員になれば，学術大会参加費も抄録集実費の 1,000 円です。また，国外在住外国人は年会費のみが 7,500 円となります。準会員には，雑誌は送付されません。雑誌投稿に際しては別途，一論文当たり 5,000 円が必要です。

投稿にかかわる会則の変更

英文誌の発行に伴い会則改定が以下のように行われました。

(旧) 第 30 条 本会は，機関誌として日本補綴歯科学会雑誌を発行し，会員に配布する。

(新) 第 30 条 本会は，機関誌として邦文誌「日本補綴歯科学会雑誌」ならびに英文誌「Prosthodontic Research & Practice」を発行し，会員に配布する。

(旧) 第 31 条 日本補綴歯科学会雑誌の投稿規定，投稿論文の査読については別に定める。

(新) 第 31 条「日本補綴歯科学会雑誌」ならびに「Prosthodontic Research & Practice」の投稿規定，投稿論文の査読については別に定める。

また，投稿規定の一部も以下のように改定されました。

(旧規定)

1. 本学会誌の発行予定日

1号：2月10日，2号：4月10日，3号：6月10日，4号：8月10日，5号：10月10日，6号：12月10日

なお，原稿受付は随時行う。

(新规定)

1. 本学会誌の発行予定日

1号：2月10日，2号：4月10日，3号：6月10日，4号：8月10日，5号：12月10日

なお，原稿受付は随時行う。

すなわち，新规定では4号と5号との発行間隔が4カ月になります。

歯科補綴学教育基準 2001 改訂案決まる


教育問題検討委員会では，「歯科補綴学教育基準 平成6年改訂版」および「歯科補綴学教育基準 平成10年補遺版」の改訂作業に着手してきました。その結果，以下のような柱（見出し項目）の原案が理事会，評議員会で認められましたので，全評議員を対象にアンケートによる意見聴取を行いました。今後，その結果をもとに理事会においてさらに検討する予定です。

総論

- I 歯科補綴学の意義・目的
- II 歯科補綴治療に関連する顎口腔系の形態と機能
- III 歯科補綴治療と生体反応
- IV 顎口腔系と精神心理的・社会的側面
- V 歯科補綴用器材

各論

- I 歯質および少数歯欠損・障害患者の補綴治療<学>
- II 歯列部分欠損・障害患者の補綴治療<学>
- III 歯列全部欠損・障害患者の補綴治療<学>
- IV 顎顔面欠損・障害患者の補綴治療<学>
- V 欠損・障害患者のインプラント補綴治療<学>
- VI 顎機能障害患者の補綴治療<学>
- VII 歯・歯列・歯周組織の異常・疾患・障害患者の補綴治療<学>
- VIII 咬合に由来しない摂食・咀嚼・嚥下障害患者の補綴治療<学>

 ニュース 医学部図書館へ学会誌寄贈される

これまで歯学部図書館に本学会誌を寄贈していましたが，今回，本学会誌を国立42校，公立8校，私立29校の医科大学・医学部図書館にも寄贈しました。

「中堅優秀論文賞」，「特定推進研究優秀論文賞」の新設

優秀論文賞に新たに「中堅優秀論文賞」，「特定推進研究優秀論文賞」が追加されたため，表彰制度の第3章 優秀論文賞の改定が行われました。改定の主な条文は次の通りです。

第12条 優秀論文賞の種類は、以下のとおりとする。

(1) 学会の学問及び技術に顕著な貢献をした研究者を表彰する目的から、日本補綴歯科学会論文賞（以下「学会論文賞」という）を設ける。

(2) 本学会の中堅として活躍している研究者を対象とし、その中で特に優れた研究者を表彰する目的から、日本補綴歯科学会中堅優秀論文賞（以下「中堅優秀論文賞」という）を設ける。

(3) 本学会が定める「特定推進研究」領域の研究を奨励、推進、顕彰する目的から日本補綴歯科学会特定推進研究優秀論文賞（以下「特定推進研究優秀論文賞」という）を設ける。

(4) 本学会の進歩発展を図り、若くして優れた研究者を助成、育成する目的から、日本補綴歯科学会奨励論文賞（以下「奨励論文賞」という）を設ける。

第14条 中堅優秀論文賞は、次の号のすべてに該当する者に授与する。

(1) 表彰時期前年の1月から12月までに本学会雑誌に掲載された学術論文の著者であること。

(2) 学術論文の投稿受理時期において36歳以上で、且つ7年以上継続して本学会会員であること。

第15条 特定推進研究優秀論文賞は、次の号のすべてに該当する者に授与する。

(1) 表彰時期前年の1月から12月までに本学会雑誌に掲載された、本学会が定める「特定推進研究」領域の学術論文の著者であること。

(2) 3年以上継続して本学会会員であること。

第18条 優秀論文賞推薦委員会は、年度ごとに学会論文賞候補者2名以内、中堅優秀論文賞候補者2名以内、特定推進研究優秀論文賞候補者2名以内及び奨励論文賞候補者5名以内を学会長に推薦する。

📖 ニュース 日本歯科新聞に106回学術大会の記事掲載される

川添堯彬会長、赤川安正学術委員長、石橋寛二第106回学術大会長、山内六男広報委員長と日本歯科新聞との座談会が行われ、106回大会の意義、EBMと歯科補綴などについての内容が9月11日発行の日本歯科新聞1247号に掲載されました。

また、106回学術大会におけるメインシンポジウムの特集記事が12月4日発行の1258号に掲載されました。

第2回国際フォーラム開催される

第1回国際フォーラムに続き第2回目が九州大学歯学部第1講義室にて平成13年9月24日(月)に42名の参加者を得て行われました。

当日は、最初にZarb教授(Toronto大学)からAt time goes by: Will it impact on prosthodontics and prosthodontists? Address to Japan Prosthodontic Societyと題して約1時間の話がありました。その後、古谷野 潔国際渉外委員長により日本の補綴学の現状が30分ほど報告されました。お二人の講演の後、補綴学の将来に関して北米と日本に共通した点、異なる点などが参加者を交えて熱心に討議されました。最後に川添堯彬会長による総括とお礼の言葉があり、会を終了しました。

今回、Nishimura, I.教授(UCLA大学)による講演も企画されていましたが、皆様もご存じのようにアメリカにおけるテロ事件で来日ができなくなったため、やむをえず中止となりました。そのため、Zarb教授の講演時間を延長して行われました。



講演中のZarb教授

なお、出席者は以下の先生方です。

山森徹雄、小出 馨、長野裕行、尾関雅彦、
萩原芳幸、宮本 諭、伊藤 裕、長谷川秀樹、
川添堯彬、更谷啓治、前田芳信、赤川安正、
窪木拓男、貞森紳丞、佐藤裕二、濱田泰三、
矢谷博文、山根 進、荒川 光、完山 学、
久保隆靖、津賀一弘、細川隆司、冲本公繪、
古谷野 潔、佐藤博信、高橋 裕、寺田善博、
羽生哲也、藤井哲則、鱒見進一、森本啓三、
王丸寛美、城戸寛史、小城辰郎、築山能大、
中島美穂子、長島義之、根津尚史、松浦尚士、
松山美和、田代芳之(敬称略)

プログラム委員会からのお願い

学術大会の演題募集と同時に抄録を提出して頂いていますが、抄録記載に関する規定があるにもかかわらず、記載方法に不備のみられる抄録がほとんどです。以下に問題となる点を列挙しましたので、抄録作成時の参考にして下さい。

- 1) タイトルには、略号や商品名を用いない。
- 2) タイトルと目的を一致させる。
- 3) 図・表が1枚のときには「図」・「表」と入れない。
- 4) 方法がわかりにくい場合には図を付ける。
- 5) 結果と考察の項には考察を入れる。
- 6) 文献記載様式は本会誌と同じにする。
- 7) 文献数は3個程度までとする。
- 8) 謝辞は入れない。
- 9) できるだけ関連の分類に入れる。
- 10) 1ヶ月→1カ月 及び→および
- 11) 数字1文字は全角, 2文字以上は半角。
- 12) 3文字の人名は姓名間にスペースを入れる。
- 13) 英文タイトルの主要単語の1文字目は大文字にする。

三学会合同会議開催

本学会と日本歯科保存学会、(社)日本口腔外科学会との合同会議が一昨年から開催されていますが、今年度は、本学会が幹事学会になっています。現在、認定医制度や国家試験への実技試験の導入などを議題としています。

なお今回(平成13年12月14日)は、日本歯科保存学会からは戸田忠夫会長、新谷英章理事、山崎宗与理事、平井義人理事が、(社)日本口腔外科学会からは瀬戸暁一理事長、寶田博理事が出席されました。本学会からは川添堯彬会長、天野秀雄理事、石橋寛二理事、山内六男理事(幹事)が出席しました。



ニュース 咬合学研連シンポジウム決まる
本学会と咬合学研連併催によるシンポジウム「咬合と睡眠—とくに睡眠時無呼吸について—」(仮題)が第107回学術大会に合わせて平成14年5月12日(日)に文京シビックホールにおいて開催されます。

第107回学術大会案内

開催日：平成14年5月10日(金)、11日(土)
会場：文京シビックホール
(<http://www.city.bunkyo.tokyo.jp/>)
〒112-0003 東京都文京区春日1-16-21
TEL：03-5803-1100

メインテーマ：「新しい歯科補綴のパラダイム—咬合の新しい展開—」

大会長：小林義典教授
(日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座)

学術大会内容(予定)

特別講演：黒川 清教授(東海大学医学部長)
「将来の医療・医学教育」

教育講演：小野 繁教授(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科全人的医療開発学系専攻包括診療歯科学講座口腔心身医学)「口腔心身症と補綴」

メインシンポジウム：「インプラント補綴の咬合」

臨床シンポジウム：「義歯の人工歯を考える」

システムチックレビュー：「咬合とEBM」

臨床教育研修：「補綴治療のスキルアップ」

研究教育研修：福原俊一教授(京都大学大学院医学研究科)、中山健夫助教授(京都大学大学院医学研究科)「エビデンスを「計る」」

技術・技工セッション：「インプラント補綴にコミットする新しい技工」

課題口演、臨床口演、国際セッション

問合先：志賀 博

〒102-8158 東京都千代田区富士見2-3-16

日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座

TEL：03-3261-5729 FAX：03-3261-8464

プログラムなどの詳細は、学会誌第46巻2号掲載予定の学術大会案内をお読み下さい。

第6回認定医研修会

認定医ケースプレゼンテーション

開催日：平成14年5月12日(日)

認定医研修：「EBMからとらえた補綴臨床」

会場：文京シビックホール

第 108 回学術大会案内 (予報)

開催日：平成 14 年 10 月 11 日 (金), 12 日 (土)
会 場：名古屋国際会議場
(<http://www.u-net.city.nagoya.jp/ncc/>)
〒 456-0036 名古屋市熱田区熱田西町
1-1
TEL：052-683-7711
FAX：052-683-7777

大会長：藤井輝久教授
(朝日大学歯学部歯科補綴学講座)
内 容：一般口演, ポスター発表, 課題口演, 臨
床口演, 国際セッション, シンポジウ
ム, 特別講演, 市民フォーラム

問合先：山村 理
〒 501-0296 岐阜県本巣郡穂積町穂積 1851-1
朝日大学歯学部歯科補綴学講座
TEL & FAX：058-329-1467

課題口演テーマ (予定)

- 1) 補綴臨床疫学・EBD・テクノロジーアセス
メント
- 2) 歯科補綴学教育の改善方策 (POS, PBL,
OSCE など)
- 3) インプラント補綴学
- 4) 審美補綴
- 5) 高齢者の補綴治療
- 6) ティッシュエンジニアリング・バイオテク
ノロジー
- 7) 咬合と全身・咬合と脳
- 8) 咀嚼と嚥下
- 9) 歯周と補綴治療
- 10) 新しい生体材料・新しい技術

第 7 回認定医研修会

認定医ケースプレゼンテーション

開催日：平成 14 年 10 月 13 日 (日)
会 場：名古屋国際会議場
応募締切り：平成 14 年 6 月 7 日 (金) 必着

プログラムなどの詳細は、学会誌第 46 巻第 4
号掲載予定の学術大会案内をお読み下さい。

今後の学術大会

第 109 回学術大会 (予定)

開催日：平成 15 年春
会 場：東京都内
大会長：石上友彦教授
(日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯
学講座)

第 110 回学術大会 (予定)


開催日：平成 15 年秋
会 場：長野市内
大会長：甘利光治教授
(松本歯科大学)

第 111 回学術大会 (予定)

開催日：平成 16 年春
会 場：東京都内
担 当：東京医科歯科大学

第 112 回学術大会 (予定)

開催日：平成 16 年秋
会 場：神奈川県内
担 当：神奈川歯科大学

 ニュース 女性会員調査結果まとまる
日本学術会議より、女性会員を増加させる
ことを目的として、女性研究者の実態調査依
頼がありました。そこで本学会でも調査を行
いました。
その結果、341 名の女性会員が補綴関連講
座に所属していることがわかりました。その
なかで、認定医は 37 名、指導医は 9 名の先
生が取得されていました。

支部学術大会のお知らせ

関西支部

開催日：平成 14 年 3 月 3 日 (日)
会 場：京都府歯科医師会口腔保健センター
大会長：野首孝祠教授
(大阪大学大学院歯学研究科統合機能口
腔科学専攻顎口腔機能再建学講座)
特別講演：田中久敏教授
(岩手医科大学歯学部歯科補綴学第 1
講座)

森本俊文教授
(大阪大学大学院歯学研究科高次脳口
腔機能学講座)

会 場：日本歯科大学
大会長：吉田隆一教授
(日本歯科大学歯科理工学講座)

関越支部 (新潟県歯科医師会と共催)

開催日：平成 14 年 8 月 4 日 (日)
会 場：新潟県歯科医師会館
大会長：加藤久夫先生
(新潟県歯科医師会常務理事)
連絡先：〒 951-8514 新潟市学校町通 2-5274
新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食機
能再建学 (担当：河野正司)
TEL：025-227-2891
FAX：025-229-3454

中国・四国支部

開催日：平成 14 年 9 月 1 日 (日)
会 場：広島県民文化センターふくやま
広島県福山市東桜町 1-21 (エストパルク内)
大会長：川村康中先生
(中国・四国支部)
連絡先：〒 734-8553 広島市南区霞 1-2-3
広島大学歯学部口腔機能修復学講座 (歯
科補綴学第二)
(担当：濱田泰三, 玉本光弘)
TEL：082-257-5680
FAX：082-257-5684

九州支部

開催日：平成 14 年 8 月 25 日 (日)
会 場：熊本県立劇場 (予定)
大会長：藤井弘之教授
(長崎大学歯学部歯科補綴学第二講座)
連絡先：〒 825-8588 長崎市坂本 1-7-1
長崎大学歯学部歯科補綴学第二講座
(担当：山邊芳久)
TEL：095-849-7691
FAX：095-849-7694

関連学会案内

第 39 回日本歯科理工学会学術講演会

開催日：平成 14 年 4 月 13 日 (土), 14 日 (日)

第 20 回日本顎咬合学会

開催日：平成 14 年 4 月 13 日 (土), 14 日 (日)
会 場：東京国際フォーラム
大会長：平井敏博教授
(北海道医療大学歯学部歯科補綴学第 1
講座)

第 27 回日本顎口腔機能学会

開催日：平成 14 年 4 月 13 日 (土)
会 場：東京医科歯科大学
大会長：三浦宏之教授
(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研
究科口腔機能再構築学系専攻摂食機能保
存学講座摂食機能保存学)

関連国際学会案内

第 1 回国際接着歯学会

開催日：平成 14 年 4 月 19 日 (金)~21 日 (日)
会 場：都市センターホテル
大会長：田上順次教授
(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研
究科)

Invited Lecture

中林宣男名誉教授 (東京医科歯科大学) :
Adhesive dentistry : history and future perspec-
tive in dentistry

Roulet, J.F. (Humboldt University) : Aesthetic
dentistry : "do and don't" to be successful

Mjör, I.A. (University of Florida Gainesville) :
Failure, repair, refurbishing, and longevity of
restorations

Symposium :

1. Metal-free Restoration
2. Esthetic Dentistry
3. New Adhesive Materials
4. Minimally Invasive Dentistry & Adhesion
5. Glass Ionomers, F-releasing materials

第8回国際レーザー歯学会

開催日：平成14年7月31日(水)～8月2日(金)
会場：パシフィコ横浜
招待講演者：Awazu, K. (Japan), Coluzzi, D.J. (USA), ほか多数
内容：招待講演, 一般講演, 講習会(顎関節症におけるレーザー治療, 漂白, メラニン除去, 他), 他
問合せ先：日本コンベンションサービス
TEL：03-3508-1214 FAX：03-3508-0820

関連学会報告

第8回顎顔面バイオメカニクス学会

平成13年9月13日(木), 14日(金)に奈良県新公会堂において杉村正仁教授(奈良県立医科大学口腔外科学講座)を大会長として開催されました。

基調講演として, 林 豊彦教授(新潟大学工学部福祉人間工学科福祉生体工学講座)による「顎運動のバイオメカニクス—生体計測とシミュレーションを結合した複合的解析—」, 高久田和夫助教授(東京医科歯科大学生体材料工学研究所)による「力学刺激に対する骨の適応的リモデリング」, 菅原利夫教授(岡山大学大学院医歯学総合研究科口腔・顎・顔面機能再生制御学講座)による「人工顎関節の開発と臨床応用」, 細井栄二先生(奈良県立医科大学口腔外科学講座)による「顎関節負荷に関する生体力学的研究」, 松本俊郎教授(近畿大学物理工学部機械制御工学科)による「光による生体硬組織の変形測定」, 丹根一夫教授(広島大学歯学部口腔健康発育学講座)による「顎顔面領域の生物学的事象に対する生体力学的解析の応用と意義」がありました。特別講演として大串 始先生(独立行政法人産業技術総合研究所)による「臨床応用をめざした硬組織再生研究」も行われました。また, シンポジウム「顎延長とそのバイオメカニクス」も安井夏生教授(徳島大学医学部整形外科学講座)による「骨延長の概要と歴史」をはじめとして5人の先生により行われました。一般講演も23演題行われました。

次年度は, 平成14年7月6日(土), 7日(日)に東京歯科大学血脇講堂にて行われる予定です。

第3回マウスガードカンファレンス

平成13年9月15日(土)に上記カンファレンスが大阪大学歯学部において行われました。本会は, マウスガードを中心にスポーツ歯学に関連した話題を取り上げ, 参加者間でのディスカッションを進めようと企画して開催されており, 大学関係者, 臨床家, 企業関係者が参加しています。(事務局：大阪大学歯学部口腔総合診療部)

今回は, 「マウスガードを普及させるには」をテーマに約70名が参加して, 普及に関する問題点と解決方法が議論されました。

第38回日本歯科理工学会

平成13年10月19日(金), 20日(土), 宮崎光治教授(福岡歯科大学歯科医療工学講座生体工学分野)を大会長として, ももちパレスにおいて開催されました。招待講演「新世紀の扉を開く日韓交流」が行われ, 朴 泳俊助教授により「A perspective on photoinitiating systems in resin-based dental materials」, 李 竜根助教授により「Dental bioceramics for cancer-treatment and hard-tissue repair」と題して行われました。学会が進めているプロジェクト「理工21世紀」の宿題報告として「チタンおよびチタン合金の応用と進展」, 「Information Technologyと歯科理工学」の2題の発表がありました。特別講演は「新しい機能性材料の設計—非収縮性機能団を持つビニールモノマー」と題し, 遠藤 剛教授(山形大学工学部機能高分子工学科分子設計工学)により行われました。口頭発表46題, ポスター発表99題の発表もありました。

評議員会においては, 次期執行部の推薦があり, 学会長には西山 實教授(日本大学歯学部歯科理工学)が推薦され, その他7名の常任理事も推薦されました。

第11回日本磁気歯科学会

平成13年12月1日(土), 2日(日)に北海道歯科医師会館において平井敏博教授(北海道医療大学歯学部歯科補綴学第1講座)を大会長として開催されました。特別講演は, 坂東永一教授(徳島大学歯学部歯科補綴学第2講座)により「磁気を応用した顎口腔機能研究」と題して行わ

れました。また、一般講演 18 題に加えてわが国において市販されている磁性アタッチメントの特別発表 4 題もありました。

関連国際学会報告

Asian Academy of Prosthodontics

平成 13 年 8 月 3 日～5 日にシンガポールで開催されました。

各国から約 150 名の参加があり、日本からは本学会推薦の福島俊士教授（鶴見大学歯学部歯科補綴学第 2 講座）、小出 馨教授（日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第 1 講座）をはじめ、約 20 名が参加しました。また、大久保力廣先生（鶴見大学歯学部歯科補綴学第 1 講座）が Hiranuma Award を受賞されました。

本学会からの Country Representative は川添堯彬会長、Vice President として赤川安正教授、International Relationship として平井敏博教授、Editor として古谷野 潔教授がそれぞれ選出され、President には Dr. Yuh-Yuan Shiau (Taiwan) が、President Elect には Dr. Benjapote Yotnuengnit (Thailand) が選出されました。

12th International College of Craniomandibular Orthopedics (ICCMO)

平成 13 年 10 月 4 日～7 日にバートホンブルグ（ドイツ）にて Rainer Schöttl 先生を大会長として開催されました。この学会は世界に 7 つの支部をもっており、今回はドイツ支部の主催でした。日本支部もあり支部長は、山下 敦名誉会員です。

日本、台湾、アメリカ、イタリアなどから参加がありましたが、アメリカからはテロの騒ぎでキャンセルが相次ぎました。日本からは川添堯彬会長をはじめ 26 名の参加があり、特別講演を含めて 10 題の発表がありました。

今回は、平成 15 年 10 月 4 日（土）、5 日（日）に京都国際会議場で開催される予定です。

9th Meeting of International College of Prosthodontist (ICP)

10 月 17 日～20 日までオーストラリアシドニー Regent Sydney Hotel で ICP が開催されました。

連続多発テロ事件のため米国からの演者ならびに参加予定者のキャンセルがめだちましたが、それでも全体では 300 名近くが集まりました。初日ならびに最終日は 30 分から 45 分の講演形式で、また 2、3 日目は口頭発表ならびにポスター発表が行われました。内容としては北米ならびヨーロッパにおける動向を反映してインプラントに関するものが圧倒的多数を占めました。

Focus Session III —Aesthetic Challenges—の中で松村英雄先生（長崎大学歯学部歯科補綴学第 1 講座）が Science of Ceramics & Dentine Bonding と題して招待講演をされました。また、冲本公繪先生（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学咀嚼機能制御学分野）、松山美和先生（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学咀嚼機能再建学分野）が Outstanding Poster Award を受賞されました。

また、次期執行部が決定し、赤川安正教授が ICP 会長に選出されました。

今回は、2003 年 7 月 9 日～12 日にハリファックス（カナダ）に決定しました。

台湾補綴学会

平成 13 年 11 月 17 日（土）、18 日（日）、上記学会が台北医科大学において開催されました。今回、川添堯彬会長が招待されました。また、早川巖教授（東京医科歯科大学大学院）が「Making the impression for complete denture—not taking the impression」と題して特別講演をされました。

KAP 秋季学会

平成 13 年 11 月 24 日（土）、25 日（日）、ソウル市 Grand Intercontinental Hotel において開催されました。日本からも川添堯彬会長、赤川安正学術委員長、古谷野 潔国際渉外委員長、はじめとして 21 名の先生方が参加されました。本学会会員のために 24 日（土）にポスターセッションが設けられ、11 題の発表がありました。また、川添堯彬会長による特別講演「The future direction of the Japan Prosthodontic Society in 21 st century—The Prosthodontic Project Japan 2001—」も行われました。なお、川添堯彬会長の

特別講演の内容は、学会ホームページの英語版に掲載されています。

23日（金）の夜には、本学会メンバーの訪韓を受けてレセプションが開催され、全員が招待されました。また、24日（土）にはKAPと本学会役員との交歓会が開催され、9名の先生が参加され、懇親を深められました。

今回参加されたほかの先生は以下の通りです。

塩山 司，鈴木卓哉，奥山弥生，笠原 紳，高木一郎，山倉大紀，鈴木浩樹，宮下有恒，白 祥鉉，萩原芳幸，千葉 治，石川 忠，田中順子，龍田光弘，呉本晃一，岡村 晃，鮎川保則，松村英雄（敬称略，順不同）



川添堯彬会長と Yang KAP 会長

海外研究機関の紹介

福岡歯科大学咬合機能修復学講座 清水博史
Texas A & M University System Baylor College of Dentistry は、テキサス州に3つある歯学部のひとつであり、超高層ビルが建ち並ぶダウンタウンダラスの北東部に位置しています。近年、州で有数の総合大学であるテキサス A & M 大学傘下の歯学部になりましたが、ほぼ100年という長い伝統を重んじて、学部の呼称にベイラーの名が今も残されています。

今回は、私の在籍していた Department of Biomaterials Science についてご紹介いたします。本講座は歯科材料を扱う基礎系の講座です。本講座の日本人研修の歴史は古く、私で26人目でした。渡辺郁哉先生（長崎大学歯学部歯科補綴学第1講座）、大久保力廣先生（鶴見大学歯学部歯科補綴学第1講座）、依田正信先生と今野龍彦先生

（東北大学大学院歯学研究科口腔機能再建・材料学講座咬合機能再建学分野）、などの各補綴学講座の先生方も留学されていました。現在も日本から数名が研修中です。本講座で研修した日本人 OB は固く結束しており、ダラス会という組織を結成して活発に活動しています。世話人代表は洞沢功子先生（松本歯科大学歯科理工学講座）です。

チェアマンの Toru Okabe（岡部 徹）教授は早稲田大学理工学部金属工学科を卒業された後、日本の企業の研究所に勤務され、30歳を過ぎてから渡米してフロリダ大学工学部の大学院で PhD を取得され、以来30年余米国の歯科大学で活躍されている高名な金属学者です。歯科用アマルガムやチタンの分野では世界的な業績があり、これらが認められて1998年に IADR から Wilmer Souder Distinguish Award を贈られています。また、学内ではテニュアー（終身雇用）を取得された教授のなかから選ばれる数少ない Regents Professor の一人でもあります。

本講座の研究テーマは、チタンの casting、アマルガムの性質、チタンと陶材の溶着、歯冠補綴物の有限要素法解析、接着性レジン の性能評価などです。留学中に私に課せられた課題は、チタン系金属の細部再現性と、チタン溶湯と埋没材の反応を抑制するパターンコーティング法についての研究でした。

Department of Biomaterials Science についてお知りになりたいことがありましたら、私までご連絡下さい。



左は岡部教授，右は筆者

新規認定研修機関（乙）の紹介

1. 医療法人社団山根歯科医院〔山根 進〕
（九州大学歯学部歯科補綴学第2講座：古谷野 潔）
2. 医療法人貴和会〔中村公雄〕（大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部：前田芳信）
3. 林歯科医院〔林 甫〕（東京歯科大学歯科補綴学第1講座：桜井 薫）

〔 〕は指導医・施設長，（ ）は連携認定研修機関（甲），同機関指導医・施設長です。

新指導医・認定医紹介

以下の先生方が新しく指導医，認定医になりましたのでご紹介いたします。

指導医

富塚 健，森田望之，竹中 誠，吉田 実，
高橋一也，延原 浩，細川隆司，二川浩樹，
今井 誠，松永匡司，村田比呂司，今泉 章

認定医

坪田健嗣，佐藤英夫，柘尾隆一，村岡正規，
芝野みほ子，田地 豪，阿部泰彦，吉田光由

新入会会員紹介

以下の先生方が新たに入会されました。今後の学会でのご活躍を期待します。

會田有希子，秋葉徳寿，浅田 清，朝月 豊，
朝妻真澄，東美穂子，荒澤拓郎，大熊健司，
大島亜希子，大平眞悦，大塚真範，大柰貴俊，
大橋芳夫，岡田和隆，小島一夫，小野寺修，
尾松青爾，飼馬祥頼，香川和子，片桐正央，
加藤直子，金井由起，鎌田麻琴，神島奈穂子，
河合達志，川崎雄一，川島和夫，河島光伸，
川端敏生，川端秀治，川邊好弘，川村慎太郎，
神原 新，菊池 薫，木村修平，清川由紀，
喜里山統子，草皆重信，草地祥貴，國井 崇，
國枝武靖，久保真一郎，黒岩理暢，郡家浩人，
郷土恵久，小島一郎，後藤良伸，小林大輔，

小林富貴子，小山美弥子，近藤健彦，近藤英臣，
齋 裕之，齋藤 格，左海孝昌，坂利浩美，
佐々木紀知加，佐藤 剛，重田浩樹，清水功之，
志村 崇，朱 一慶，白土壽香，末竹秀和，
杉田佳織，杉原 巧，鈴木 淳，鈴木史子，
瀬田貢代，相馬一志，高木佐知子，高森奈緒，
竹下智之，竹屋静枝，田中健雄，田中英明，
田中道子，田村信太郎，土田俊宏，手嶋伸介，
寺門都愛，陶 建祥，徳本千代美，戸根木千条子，
富田祥子，友永章雄，友松由次，仲田浩子，
中林晋也，中村 穰，中村元祐，新井田淳，
西田真弓，西牟田国博，西村英紀，西本くみよ，
二之宮洋平，野上祐一，野瀬 清，野村太郎，
萩原貴寛，長谷川裕司，長谷川陽子，羽田宜弘，
畑岡 拓，初野有人，早川正哉，林 徳俊，
林田雅弘，原 吉宏，原田武洋，引地尚子，
久光啓樹，樋野利男，檜原 司，姫野健一，
平塚 愛，吹譯浩史，福島 崇，藤関陽平，
藤田 仁，藤波和華子，藤本 茂，古川弘貴，
保地富夫，細川あゆみ，細川寛司，細野直子，
堀 由紀，本蔵義信，本淨 敏，本間慎也，
前田巨介，牧野泰千，正田光典，柘陽一朗，
町田 健，町谷佳枝，松井理恵，松尾勝弘，
松下庸子，松田宗久，松村幸子，松森由紀恵，
水橋 亮，道見 登，三宅宗次，宮下 顕，
山浦玄州，山口哲史，山崎薫子，山田 淳，
山田賢三，山田聖平，大和地敬行，山本 尚，
山本 宏，山本裕信，湯澤清孝，横矢隆二，
横山善人，吉仲正記，吉村昌子，李 敦吾，
竜信之助，刘 月，若月和仁，若林 類，
渡辺有美

広報委員会からのお願い

広報委員会では，学会に対する皆様からのご意見，ご要望，ご質問をお待ちしております。下記のファックスかメールにてお願い致します。

〒500-8309 岐阜市都通5-15
朝日大学歯科臨床研究所附属歯科診療所
日本補綴歯科学会広報委員会
委員長：山内六男 幹事：岩堀正俊
TEL：058-253-7272 FAX：058-255-0350
kohojpgs@dent.asahi-u.ac.jp